

助成金等公基情報

公益財団法人 新技術開発財団

第94回(平成26年度 第2次)新技術開発助成の募集

科学技術に関する独創的な技術をもとに実用化開発に取り組む中小企業に、開発費の一部を助成するものです。

- 応募条件: (1)独創的であること (2)国産技術であること (3)経済的効果が大きく期待できること
(4)実用化の見込みがある技術であること (5)開発予定期間が原則として1年以内であること
(6)大企業、上場企業、及びそれらの関係会社でないこと

■助成金額: 本試作品開発に必要な費用(社内人件費は原則対象外)
試作費合計の2/3以下で、2,000万円を限度

■応募期間: 平成26年10月1日～10月20日(締切日消印有効) ■詳細: <http://www.sgkz.or.jp>

(財)三菱UFJ技術育成財団

平成26年度 研究開発助成金(第2回)公募開始について

■対象企業・プロジェクト

- ・新技術、新製品等の研究開発を行う、設立・創業後もしくは新規事業開始後5年以内の中小企業または個人事業主。
- ・新規性のある機械、システム、製品等の開発で、原則として、2年以内に事業化が可能なプロジェクト。

■助成金額: Aプロジェクトにつき300万円以内かつ研究開発対象費用の1/2以下。

■公募期間: 9月1日～10月31日

■問い合わせ: 公益財団法人 三井UFJ技術育成財団 事務局 TEL: 03-5730-0338 URL: <http://www.muftech.or.jp/>

ご挨拶

会員の皆様へ

会員の皆様には多大なご支援をいただきまして、誠にありがとうございます。本年度もいよいよ9月に入りまして、皆様にはご迷惑のことと存じ上げます。9月からアカデミックサロンなどの研究者交流を本格的に開始し、マガジン・ニュースの発行や会員様への訪問など積極的に実施させていく所存でございます。ぜひご活用いただければと思います。

また、この度文部科学省からCOC(Center of Community)の認定を受けてまいりました。先日新聞にも載りましたが、「山梨ブランドの食と美しい里づくりに向けた戦略的人材の育成」という主題で、①「食」の産地ブランド化プロジェクト、②次世代農業創出プロジェクト、③「美しい里づくり」プロジェクト、が計画されております。

さて、顔は変わりますが国の産地振興内容が確定しまして、来年度に向けた活動の一角が見えてきております。

産地振興自体は各省庁から発表されますのでここでは割愛しますが、産地に関するものが、約8割の増額になりました。国際競争力を高める内容も豊富であることから、ぜひ皆様には大学等の先端技術をご活用されて、同業他社との及ばない独自ビジネスを構築されますことをお祈りし、大学もご協力できれば光栄でございます。

最後となりますが、大学が募集を出す内容がそのまま商品化に結びつくことは極めてまれではありますが、その内容をヒントに商品企画がスタートした新たな技術開発に結びつくものはあります。このような際に様々な補助金や競争資金を大学と一緒に取りに行くこともぜひご検討いただければ幸いです。では、今後とも弊学のご支援をよろしくお願い致します。

統括コーディネーター 遠田 隆

【発行 2014年9月】



国立大学法人 山梨大学
社会連携・加付管理センター
新技術情報クラブ事務局
〒400-8510 山梨県甲府市西田4-4-37
TEL: 055-220-8734 FAX: 055-220-8737
E-mail: ranki-as@yamaguchi.ac.jp
URL: <http://sangaku.yamaguchi.ac.jp/>

No. 1
September
2014

新技術情報クラブ CLUB NEWS

国立大学法人 山梨大学

大学TOPICS

「発生工学研究センター」開所式を挙行政！！

革新的技術力と研究力を兼ね備えた発生工学研究者の需要は、ライフサイエンスの進展とともに今後益々増大すると予想されます。そこで、本学では極めて高いレベルの発生工学的技術を身につけた優れた研究者を養成することを目的とした「発生工学研究センター」(センター長: 若山照彦教授)を設置し、8月1日(金)に開所式を挙行政しました。

式では、まず前田秀一郎学長から「国内外の教育、研究機関と協働して先進的医工融合ライフサイエンス研究を推進し、その過程を通じて、ライフサイエンス・イノベーションを創出できる世界トップレベルの発生工学的技術と研究力を兼ね備え、基礎、並びに応用研究分野においてグローバルに活躍できる発生工学研究エキスパートを養成することを旨とします。」との挨拶があり、続いて、前田学長、若山センター長による「発生工学研究センター」看板の除幕が行われました。引き続き、発生工学研究センターの概要と事業内容等について、記者説明会が行われました。



(左)若山センター長、(右)前田学長



「第7回山梨大学ワイン科学士認定証書授与式」を挙行政！！

7月15日(火)、ワイン科学研究センター1階講義室において、第7回山梨大学ワイン科学士認定証書授与式を挙行政しワイン科学士7名、準ワイン科学士1名を認定しました。

式では、認定証書の授与に続き、前田学長から「本日、ワイン科学士、準科学士の称号を授与された皆さんが、今後、益々活躍され、山梨県産ワインの品質向上に貢献していただきたいと心から願っています。」と式辞があり、その後、山梨県工業技術センターの石原光広所長と山梨県ワイン醸造組合の齋藤 浩会長から祝辞をいただきました。



認定証を手にするワイン科学士及び準ワイン科学士

「平成26年度「地(知)の拠点整備事業(COC)」に本学事業が採択！！

文部科学省「地(知)の拠点整備事業(COC)」に本学の事業「食のブランド化と美しい里づくりに向けた地(知)の拠点づくり」(仮称)が採択されました。山梨県では、基幹産業の1つである農業分野の衰退に歯止めをかけ、自然と一体となった新たな里づくりが求められており、本学生命環境学部(平成24年度設置)もこのような課題解決に取り組んでいます。

地域課題実践コースに専門カリキュラムを構築し新設する地域志向型の全学共通教育カリキュラムと連動させることにより、将来にわたって地域の課題を解決できる実践的人材を全学的に育成していきます。同時にスマート・アグリや最先端発生工学等の技術を活用した次世代型農業、有用菌を利用した安全で付加価値の高い農産物生産、水質などの環境保全、さらにワインの地域ブランド化等の研究を行い、地域産業の発展に寄与するとともに美しい里づくりを通じて若者に魅力ある地域創生に貢献してまいりたいとしています。

山梨大学特許最新情報

特許最新情報についてはクラブ会員のみへの提供となっておりますので、本掲載では非公開とさせていただきます。

イベント活動報告

やまなし産学官連携研究交流事業（研究成果発表会・地域連携フォーラム）が盛大に開催されました！！

平成26年9月5日（金）、ペルクラシック甲府において、平成26年度やまなし産学官連携研究交流事業として、研究成果発表会と地域連携フォーラムを開催しました。今年度は第10回となる産学官連携最大のイベントであり、様々な業界から約400名の参加者を迎え、盛大に開催することができました。本研究交流事業では、基調講演として「ものづくりとガラノボス化」-山梨からガラノボスを抜け出そうと話し、山梨県総合理工研究機構 総長の小林正樹氏からご講演いただき、皆様、興味深く熱心に聴講されていました。

また、地域連携フォーラムとして「ものづくりと商標を活用した地域のイノベーション」をテーマにパネルディスカッションを行い、パネリストからの活発な質問と会場からの質問も含めて活発なディスカッションが行われました。口頭発表並びにポスター発表では、山梨大学、県立研究機関、企業等で実施した、機械・電子・食品・自然エネルギー・材料・地域産業など幅広い分野の研究開発について80件に及ぶ発表と展示があり、多くの聴講者と見学者を迎えました。この「やまなし産学官連携研究交流事業」を、山梨県内の産学官連携の促進と、本学での研究成果を地域企業の皆様に応用して頂くきっかけの場となればと考えております。



山梨県産業振興部長の挨拶

山梨大学学長の挨拶

小林総長の基調講演

満席の会場



地域連携フォーラム

口頭発表

ポスター展示

講演資料に込める山梨県産産学官連携コーディネータ

コーディネーターによる【研究者紹介】

工学部 情報メカトロニクス工学科 准教授 北村 敬也 (きたむら としや)



工学部情報メカトロニクス工学科の北村先生をご紹介します。

先生は音の振動に関する研究をされています。具体的には、音、特に低周波の音波が人にどう伝わるか、人がどう感じるかを主にコンピュータシミュレーションで明らかにします。人は3~4kHzの音が最も聞こえよく、100Hz以下の低周波音波は聞こえにくいと感じたり不快になるそうです。例として電力線、建物外部のルーバーなどに風が当たって発する「ゴー」という音などは嫌な音になります。高い音を出す製品では、「ピーン」「ネー」というような高い純音成分を減らし、立ち上がりの音の大きさを抑えるなどの対策がされているそうです。製品での音の対策としては、壁にグラスウール、発泡性コンクリートなどを使い吸音させるが、断熱が主目的の二重ガラス窓を使うと効果的とのこと。最近の学生さんなどは、聴覚を見ながら音楽を聴くときにスピーカーでなくヘッドフォンを使いますが、その状態は音源と音の場所がずれているので違和感があるはずです。これを緩和する技術の開発に興味があるとお話でした。ライフスタイルが変わることで、音という人に身近な物理現象に関して新しい研究テーマが生まれるのですね。

(記：総務コーディネータ)

産学官連携TOPICS

私たちの組織が新しくなりました！！

平成26年4月1日付で、産学官連携・研究推進機構は社会連携・研究支援機構となり、田中正典 理事長・副理事長が機構長に就任しました。また、知財戦略室と地域連携室が統合し、社会連携・知財管理センターが誕生しました。総合研究推進本部研究推進センターおよび研究支援機構と連携して、これまで以上に社会連携のアクティビティを上げていきますので、宜しくお願い致します。

アカデミックサロンを開催しました！！

平成26年6月12日（木）甲府北口「富士」にて第1回、6月6日（水）本学「A3 号館」にて第2回アカデミックサロンを開催しました。2回共ソフトウェア領域の特許と研究紹介を目的として、第1回では島崎先生、安藤先生に、第2回では西條先生、森崎先生にショートプレゼンをして頂き、そのあと懇談会食事をとりグラスを交えながら情報交換を行いました。地元企業の若手開発者の参加が多く、普段の仕事とは違ったアカデミックな話題に触れるとともに、先生方と知り合えたことを喜んでおられました。

大学発ベンチャー表彰2014 発表！！

大学発ベンチャー表彰は2014年度に新しく始まったもので、大学等の成果を活用して起業した大学発ベンチャーのうち、今後の活躍が期待される優れた大学発ベンチャーとそれと連携した大学や企業等を表彰するものです。詳細は、次をご覧ください。

独立行政法人 科学技術振興機構 <http://www.jstgo.jp/eas/award.html>

山梨大学 社会連携・研究支援機構 産学官連携コーディネータ 最上 修平

新技術情報クラブ会員の皆様、はじめまして、最上修平と申します。7月16日より社会連携・知財管理センターで産学官連携コーディネータとして勤務しております。半信体メカで国内外の主要ライターの構築と運営に32年6ヵ月経つわり、特に半信体製造装置の導入・改善・保全を主に務めてきました。この間、半信体材料や製造装置メカ、機械加工会社など多くの企業とお付き合いをさせて頂きました。立場が変わりこれからは、機械・材料を中心に企業の皆様と本学の先生方を繋ぐ仕事をさせて頂けます。宜しくお願い致します。

